

第1問「犬をしつけるには、飼い主が上位に立たなければならない」 答え ×

昔は犬をしつけるには、上下関係をはっきりさせないといけない（服従関係）と言われていました。犬の祖先はオオカミであるという説から、オオカミの群れ（観察可能な飼育下のオオカミの群れ）の階級制（リーダーが統率）を犬に当てはめて、人がリーダーにならなくてはいけないと考えました。しかし、最近の研究では人と犬が見つめたり、触わったりすると「幸福ホルモン」と呼ばれるオキシトシンが双方に分泌さえることも分かっており、現在の人と犬の関係性は上下関係ではなく、どちらかという母子関係に近いと言われています。

第2問「犬をしつける時は、褒めてご褒美をあげる方が効率が良い」 答え ○

最近の犬のトレーニングでは、覚えてほしい行動の後に、その犬にとって喜ぶご褒美（報酬）を与えることで、その行動を増やす（強化する）という手法（陽性強化法）が主流になってきています。

人に飛びつくことを止めさせようとした場合、人に飛びついた瞬間に叱る方法（人に対して不安や恐怖感を感じる教え方）でやめさせるのではなく、人に飛びつかないで目の前で座ればオヤツがもらえるという方法（人に対して期待感を持つ教え方）で、人と犬の関係性を友好的にしておいた方が学習の効率が良くなります。

第3問、「ご飯を食べる時は、犬より先に人が食べなければならない」 答え ×

オオカミは、リーダーなど上位の個体から食べていくと言われていたことから、犬も同様に考えられてきましたが、オオカミと犬の行動は違うことが解明され、現在ではこのような食事の順位について、人と犬には関係がないため、人が犬より先に食べようが、後に食べようが、人と犬の関係性に影響が及ぶことはありません。

第4問「引っ張りっこで犬と遊ぶときは、負けてはいけない」 答え ×

引っ張りっこなどの遊びで、犬にオモチャを渡すと自分の方が人よりも偉いと勘違いし、犬が人よりも上に立つと言われていました。オモチャを取り上げようとして近づいたら唸られたなどは良く聞きますが、これは飼い主を下位とみなして威嚇しているのではなく、大好きなオモチャを取られてしまうという不安から守ろうとする行動に起因します。飼い主にオモチャを動かしてもらった方が楽しいと理解できると、オモチャの手を離して渡しても（負けても）自発的に飼い主の元へ持ってくるようになります。

第5問「犬を叱るときは、マズルを持ってダメといって叱る。」 答え ×

親犬は子犬がじゃれてきて興奮しすぎたりすると動きを止めるために、マズルや首元を噛んで動きを制御することがあります。子犬は動く痛いので、動きを止めることから行動を抑制することを覚えます。このような犬の行動が元になって叱る時はマズルを持ちましようと言われてきましたが、人の手には親犬の様な鋭い牙がついていませんし、力の強い成犬になるとマズルをつかむことで動きを制限することは難しくなり、叱り方としては適切ではありません。逆に、掴まれた人の手から逃げ出す経験を繰り返すことで、人の手が伸びてくことや体を触られることが嫌になり、噛みつくなどの問題行動に発展する可能性があります。